



軽防協ニュース速報

2016年第2四半期(4月－6月)の伝染病発生状況

2016年8月配信

(International Collating Centre からの情報)

オーストラリアからの報告は、1 四半期遅れて配信されることに注意されたい。従って、以下に、オーストラリアの 2016 年第 1 四半期の報告を記載する。その後、その他の国の 2016 年第 2 四半期の報告を通常の形式で記載する。

オーストラリアの 2016 年第 1 四半期の報告

Animal Health Australia(AHA)

Animal Health Surveillance Quarterly(AHSQ) から編集

<http://www.animalhealthaustralia.com.au/elibrary>

州および準州の報告

オーストラリアでは、州や準州に動物の疾病を管理する責任がある。国の動物衛生プログラムが動物衛生委員会との協議を通じて推進され、オーストラリア動物衛生局(AHA)によって管理されている。

ニューサウスウェールズ州

報告事項なし。

ビクトリア州

報告事項なし。

クィーンズランド州

報告事項なし。

タスマニア州

報告事項なし。

サウスオーストラリア州

報告事項なし。

西部オーストラリア

報告事項なし。

ノーザンテリトリー州

報告事項なし。

2016 年第 2 四半期の報告

アルゼンチン

報告事項なし。

オーストラリア

冒頭で述べたように、2016 年第 1 四半期の報告は上述のとおりである。

カナダ

馬伝染性貧血 (EIA)

2016 年 4 月 1 日から 6 月 30 日の間に、ブリティッシュコロンビア州 (1 例) およびサスカチュワン州 (14 例) で、総計 15 例の EIA 陽性馬が確認された。陽性馬はブリティッシュコロンビア州 (1 件) およびサスカチュワン州 (4 件) の 5 件の異なった施設で確認された。

感染が確認されたサスカチュワン州の 2 件の施設は疫学的に関連しており、州内で発生した 14 例中 11 例を占めた。2016 年 2 月に感染が確認されたある施設とその 2 件の施設は疫学的に関連していた。上記の症例は AGID により血清学的に陽性と同定された。

チリ

報告未着。

デンマーク

報告未着。

フランス

(馬感染症疫学監視ネットワーク RESEP からの情報)

ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による流産

2 件の発生がコート・ダルモール県およびマンシュ県で確認され、1 例はアングロアラブの牝馬であった。陽性診断は胎子組織の PCR により行われた。

ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による呼吸器疾患

2016 年 4 月 29 日に 1 件の EHV-1 による呼吸器疾患の発生がロンド県で確認された。罹患馬は 3 歳のフレンチ Trotter で、別の 1 頭と接触していた。鼻腔スワブの PCR 検査で陽性と診断された。

2016 年 5 月 25 日に 2 件の EHV-1 による呼吸器疾患の発生がカルヴァドス県の異なる施設で確認された。1 施設で 1 例、別の 1 施設では 3 例であった。鼻腔スワブの PCR 検査で陽性と診断された。

2016 年 6 月 3 日に 1 件の EHV-1 による呼吸器疾患の発生がジロンド県で確認された。鼻腔スワブの PCR 検査で陽性と診断された。

2016 年 6 月 15 日に 1 件の EHV-1 による呼吸器疾患の発生がカルヴァドス県の種馬場で確認された。その施設には 40 頭の馬が繋養されているが、感染が報告されたのは 1 例であり、それはワクチン未接種のフレンチサドルブレッドの子馬で 2016 年 6 月 14 日に呼吸困難の症状を示した。鼻腔スワブの PCR 検査で陽性と診断された。

2016 年 6 月 24 日に EHV-1 による呼吸器疾患がマンシュ県の施設で 2 頭、牝馬と子馬各 1 頭で確認された。子馬は敗血症の症状を示した。鼻腔スワブの PCR 検査で陽性と診断された。

2016 年 6 月 29 日に 1 件の EHV-1 による呼吸器疾患の発生がカルヴァドス県で確認された。鼻腔スワブの PCR 検査で陽性と診断された。

ウマヘルペスウイルス I 型 (EHV-1) による神経疾患

2016 年 6 月 23 日に 1 件の EHV-1 による神経疾患の発生がヴァール・ド・マルヌ県で確認された。罹患馬は 4 歳のフレンチ Trotter で、重度の運動失調、運動麻痺、失禁の症状を示した。この症例は 7 頭の他の馬と接触していた。罹患馬の検疫および隔離を含む防疫措置が行われた。鼻腔スワブの PCR 検査で陽性と診断された。

2016 年 6 月 27 日に 1 件の EHV-1 による神経疾患の発生がカルヴァドス県で確認された。罹患馬は運動失調、運動麻痺、嗜眠の症状を示した。この馬は 25 頭の他の馬と接触しており、他に 1 頭の馬が感染した。罹患馬の検疫および隔離を含む防疫措置が行われた。鼻腔スワブの PCR 検査で陽性と診断された。

ウマヘルペスウイルス 4 型 (EHV-4) による呼吸器疾患

EHV-4 による呼吸器疾患がカルヴァドス県、ウール県、ウール・エ・ロワール県、ガー

ル県、ガロンヌ県、イゼール県、ロワール県、マンシュ県、オルヌ県およびソーヌ・エ・ロワール県で 14 件発生し（1 例発生が 10 件、2 例発生が 1 件、3 例発生が 3 件）、その中にはフレンチトロッター（3 例）、フレンチサドルブレット（1 例）、アラブ（1 例）、サラブレッド（1 例）が含まれていた。罹患馬は発熱、鼻漏、リンパ節腫脹、嗜眠、疲労感、および黄疸を含む臨床症状を示した。全ての発生で、鼻腔スワブを用いた PCR により陽性診断を行った。

ピロプラズマ病

フランスでは依然として風土病である。

ロタウイルス

ロタウイルス感染が、カルヴァドス県、ウール県、ジロンド県、ランド県、マイエンヌ県、オルヌ県、ピレネー・アトランティック県およびヴァル・ドワーズ県で 13 件の発生が（1 例のみが 9 件、2 例が 2 件、3 例が 1 件および 7 例が 1 件）で、サラブレッド（4 件）を含む様々な品種に認められた。罹患馬は、疲労感、虚弱、下痢、発熱、元気消失および呼吸障害を示した。3 頭の子馬が死亡した。糞便、腸内容、臓器あるいは BALF を用いた PCR により陽性診断を行った。

ロタウイルスおよびコロナウイルス

2016 年 4 月 4 日に 1 件のロタウイルスとコロナウイルスの混合感染がカルヴァドス県で確認された。罹患馬は 8 日齢のサラブレッドで 3 頭の他の馬と接触しており、下痢の症状を示した。罹患馬の検疫および治療を含む防疫措置が行われた。糞便の PCR 検査で陽性と診断された。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

8 件の発生がブーシュ・デュ・ローヌ県、カルヴァドス県、アンドル＝エ＝ロワール県、イゼール県、ランド県、ロワール＝アトランティック県、マルヌ県、セーヌ＝マリティーム県で報告され、フレンチサドルブレット（2 例）、フレンチトロッター（1 例）およびポニー（1 例）が含まれていた。罹患馬は鼻漏、発熱、発咳、リンパ節腫脹、浮腫および膿瘍といった臨床症状を示した。陽性診断は鼻腔スワブ、気管洗浄液、膿汁あるいは膿性鼻漏の PCR により行われた。

ドイツ

報告事項なし。

Dr.Boese 研究所有限公司 (HBLB の CEMO 認定研究所) による追加結果

馬伝染性子宮炎 (CEM)

2016年の第2四半期に、CEMが12施設で20例確認され、アイスランド種(種牡馬13例および牝馬1例)およびウォームブレッド(種牡馬1例)、冷血種(種牡馬1例)、フリージアン(種牡馬1例)、アンダルシアン(種牡馬1例)、品種不明(牝馬2例)が含まれていた。陽性診断は生殖器スワブによるPCRで行われた。

ウマヘルペスウイルス1型 (EHV-1)

2016年の第2四半期に、EHV-1が異なる8施設で9例確認された。鼻腔スワブ(3例)およびEDTA血清(1例)を用いたPCRにより診断された4例では、臨床所見は入手できなかった。EHV-1による流産が、胎子の肺穿刺吸引液および牝馬の悪露によるPCR検査により5例で確認された。

ウマヘルペスウイルス4型 (EHV-4)

2016年の第2四半期に、EHV-4が異なる6施設の9例の1歳馬に確認された。陽性診断は鼻腔スワブによるPCRにより行われた。入手可能な診断記録は無かった。

ロタウイルス

ロタウイルス感染症が2016年の第2四半期に1頭の子馬で確認された。罹患馬は下痢と発熱の臨床症状を示した。陽性診断は、糞便サンプルの抗原検出ELISAにより行われた。

サルモネラ

サルモネラ感染症が2016年の第2四半期に1例の2歳セン馬に確認された。罹患馬は下痢、発熱、体重減少といった臨床症状を示した。陽性診断は糞便サンプルのPCRおよび細菌培養により行われた。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

腺疫が、2016年の第2四半期に、8件の施設で10例に確認された。罹患馬は発熱、鼻漏およびリンパ節の腫脹といった臨床症状を示した。陽性診断は、鼻腔スワブ(6例)と下顎リンパ節(4例)の膿瘍材料による細菌培養およびPCRにより行われた。

香港

報告事項なし。

アイルランド (共和国)

ウマヘルペスウイルス1型 (EHV-1)

4例のEHV-1感染症例が2016年の第2四半期にティペラリー郡(5月に2症例)、ウェッ

クスフォード郡（6月に1症例）およびオファリー郡（6月に1症例）で報告された。この症候群に関連する臨床所見は入手できなかった。

イタリア

報告未着。

日本

ウマヘルペスウイルス1型（EHV-1）による流産

EHV-1による流産の発生が、2016年4月12日に最初に確認され、2016年5月5日に最後の症例が報告された。3戸3頭のサラブレッドで発生し、全ての馬はワクチンを接種されていた。診断はEHV-1遺伝子のPCRにより検査され、北海道日高家畜衛生保健所で確認された。

ニュージーランド

報告事項なし。

シンガポール

マイコバクテリウム・アビウム

2016年4月1日に1例の *Mycobacterium avium* 感染(非定型抗酸菌症)が報告された。罹患馬は慢性的な体重減少と下痢の臨床症状を示し、剖検により腸管リンパ節の腫脹と腸管に膿瘍が確認された。診断は病原体分離、培養菌の RPOB 遺伝子シーケンスおよび病理組織学的に抗酸菌染色の陽性反応により行われた。検査施設は IDEXX 検査機関であった。

南アフリカ

アフリカ馬疫（AHS）

2016年4月2日に1例のアフリカ馬疫（AHS）が開業獣医による臨床サーベイランスによりパールで発見された。発病と死亡時に牡の子馬から採材されたサンプルは AHS ウイルスが陽性であり、その後血清1型であると示された。封じ込め地帯がこの症例を中心に設定され、監視下におかれた。

最初の症例を含めて、封じ込め地帯内の8施設21例の馬が AHS ウイルス感染陽性であった。これらの馬の6例が症状を示し、4例が死亡した。

直近の症例は2016年5月4日に採材されたサンプルから発見された。最後に確認された AHS 症例から40日間経過し、ウェリントン、パールおよびステレンボッシュの周りの封じ込め地帯は解除され、AHS サーベイランス地帯内での移動制限は6月13日より通常手順に戻っている。これに関する詳細は www.elsenburg.com で確認できる。

サーベイランスおよび自由地帯でのワクチン接種は2016年6月13日から10月31日ま

でのみ許可されており、行政の獣医師のみにより許可されている。AHS の制御地帯の地図は www.elsenburg.com/vetepi で確認できる。

韓国

ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による流産

2016 年 5 月 18 日に、検疫監査機関 (QIA) が韓国の江原道で EHV-1 による流産を 1 例報告した。感染したミニチュアの牝馬はワクチン未接種であった。適切な防疫措置は実施されている。陽性診断は肉眼所見と胎盤および胎子組織の PCR により行われた。

スペイン

ピロプラズマ病 (*Babesia caballi*, *Theileria equi*)

ピロプラズマ病はスペインでは風土病である。

スウェーデン

報告未着。

スイス

エールリヒア症

2016 年第 2 四半期に 2 件の異なる施設で 2 例のエールリヒア症が報告された。最初の症例では、馬は発熱と血小板減少症を示しており、血液塗抹によりモルラ (訳注: 感染した単球や顆粒球中に観察される小胞で、中で菌が増殖。桑の実に類似することからそのラテン語に由来) を確認し、診断された。2 例目は、診断は PCR で行われた。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

2016 年第 2 四半期に 3 件の異なる施設で 3 件の発生が確認された。最初の発生は 2 例、2 件目は 1 例、3 件目は 5 例以上が関与していた。

ウマヘルペスウイルス 1 型と 4 型 (EHV-1&4)

2016 年第 2 四半期に EHV-1 と EHV-4 の混合感染による発生が 1 件報告され、1 施設で成馬 6 頭と子馬 1 頭が感染した。発熱を含む臨床症状が認められた。診断は EDTA 血液と鼻腔スワブの PCR により行われた。

ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) とアクチノバシルス・エクーリの混合感染

2016 年第 2 四半期に新生子馬で 1 例報告された。診断は PCR、組織学および病理学検査により行われた。

ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による新生子馬の疾病

2016 年第 2 四半期に EHV-1 による新生子馬の疾病が 1 例確認された。新生子馬は衰弱と敗血症を示した。診断は PCR により行われた。

コクシジウム症

2016 年 4 月 1 日に 1 例確認された。下痢を含む臨床症状が認められた。

オランダ

報告事項なし。

アラブ首長国連邦 (UAE)

報告未着。

イギリス

イギリスの症例や発生報告は、第 2 四半期以降の中間臨時報告として既に発表していることに注意されたい。腺疫はイギリスの馬では風土病となっている。

アメリカ合衆国

クロストリジウム腸炎

Clostridium difficile (A 型毒素遺伝子) および *C. difficile* (B 型毒素遺伝子) に関連したクロストリジウム腸炎がケンタッキー州のそれぞれ異なる施設で診断された。更に A 型毒素型 *C. perfringens* による 7 件の発生も報告された。

馬ウイルス性動脈炎

2 例の種牡馬が一方はミシガン州もう一方はカンザス州で馬動脈炎ウイルスのキャリアーとして確認された。

馬瘡疹

ケンタッキー州において EHV-3 感染が 5 例報告された。

東部馬脳炎 (EEE)

2016 年は現在までに総計で 18 例の EEE が確認された。フロリダ州 (11 例)、サウスカロライナ州 (5 例)、ノースカロライナ州 (1 例) およびバージニア州 (1 例) で報告された。症例の大半は EEE に対するワクチン未接種であった。

ウマヘルペスウイルス (EHV) による疾患

EHV-1 および EHV-4 のよる疾病が拡大し、若齢子馬の呼吸器病は主に EHV-4 感染によるものであった。EHV-1 による流産症例が 3 例、全てケンタッキー州で確認された。2016 年第 2 四半期に EHV-1 による神経性疾病が総計 4 件確認され、それらの内の 3 件は競馬場（ペンシルベニア州、ネブラスカ州、ニューメキシコ州）で、1 件は生産牧場（テキサス州）で発生した。非神経病原性株と神経病原性変異株の両方のウイルス株が関与していた。

ウマヘルペスウイルス 2 型および 5 型 (EHV-2、EHV-5)

フロリダ州およびケンタッキー州において EHV-2 および EHV-5 の発生が少数報告された。

馬伝染性貧血

コロラド州の競馬場で 1 例の非競走馬に確認された。当該馬は、コロラド州での滞在は 60 日未満で、州外の競馬場から輸送された。

馬インフルエンザ

馬インフルエンザはアメリカ合衆国では風土病である。2016 年第 2 四半期では発生がウエストバージニア州、オハイオ州、ケンタッキー州、ニューヨーク州、イリノイ州およびメイン州で報告された。

馬ピロプラズマ病 (EP)

2016 年第 2 四半期では血清陽性馬の増加が確認された。全てクォータホースの競走馬で、大半はテキサス州であった。中には非公営のレースの出走馬もいた。

ノカルジア性胎盤炎

Amycolatopsis spp.によるノカルジア性胎盤炎が 1 例確認された。

狂犬病

アリゾナ州で、治療に反応しない入院馬で狂犬病が 1 例報告された。

ロドコッカス・エクイ感染症

ロドコッカス・エクイ感染症はアメリカ合衆国では風土病である。原因菌は遍在しているが、発生報告はほとんどなされず、発生率を算出することはできない。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

腺疫はアメリカ合衆国では風土病である。この疾病は 17 州の 57 施設で報告されており、10 州では複数の発生が確認された。罹患馬の推定頭数は 84 頭であった。

サルモネラ感染症

2016年第2四半期にサルモネラ感染症の発生が報告され、7件がB群 *Salmonella* 属菌、1件がC1群 *Salmonella* 属菌によるものであった。

ウエストナイル脳炎 (WNE)

2016年第2四半期は、これまでに米国で2例のWNEが記録されており、1例目はカリフォルニア州で2例目はフロリダ州であった。2例目はEEEウイルスとの混合感染であった。

ベネズエラ

報告未着。